

2020 年度 競技規則 修改 正 の ポ イ ン ト

1. 世界陸連による修改正

	ポ イ ン ト	関 連 条 文
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織名称変更 (2019/11) ・ I A A F (International Association of Athletics Federations) <li style="padding-left: 20px;">W A (World Athletics) 国際陸連 ⇒ 世界陸連 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 規程類番号体系変更 (2019/11) ・ 競技規則に限らず、全規程類体系変更 <li style="padding-left: 20px;">Competition Rules → 【 Competition Rules 】 【 Technical Rules 】 	2020年度 日本陸連競技規則は従前の 体系にて記載

2. 日本陸連による修改正・明確化 (大幅な変更はない)

	ポ イ ン ト	関 連 条 文
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 審判長の任務【明確化】 ・ 混成競技において、スタート審判長が任命されている場合の混成競技審判長との所轄任務の明確化 ・ 審判長による警告、除外は「リレーチーム」も対象 	§ 1 2 5 - 3 § 1 2 5 - 5
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ スターターの役割【明確化】 ・ すべての競技者にとって公平で公正なスタートを保証することに責任を持つ 	§ 1 2 9 - 2
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計測員(科学)の任務(動作)【変更】 ・ 計測装置の動作確認タイミング (従前) 競技の開始前と終了後 → (変更) 競技の開始前 ・ 競技中の動作異常に備え、鋼鉄製巻尺は競技場所に常に用意しておく 	§ 1 3 5
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性別の定義【明確化】 	§ 1 4 1 - 4・5
5	<ul style="list-style-type: none"> 【国際】服装(上着)の色【削除】 ・ 前後同色がのぞましい (削除) 	§ 1 4 3 - 1 (国内非適用)
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競技靴の規制【追加】 ・ 靴底の厚さ規制 (スパイクなし: 40mm、スパイクあり: 30mm) <li style="padding-left: 20px;">⇐ 走高跳・走幅跳の靴底の厚み (13mm) <li style="padding-left: 40px;">走高跳の踵底の厚み (19mm) ・ 市販 (4か月前からだれでもオープンな市場で容易に購入できる) ・ 競技中、審判長が疑義を抱いたら、当該靴を提出させることができる 	§ 1 4 3 - 2・5・12・13 ※ 別途・説明あり 2020・02・25 読売新聞掲載

I A A F ⇔ W A J A A F ⇔ N R R
 【 Competition Rules 】 ⇔ 競技規則 【 Technical Rules 】 ⇔ 技術規則

	ポ イ ン ト	関 連 条 文
7	<p>○ 助力と見なされず許可する行為【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技役員・主催者から任命された者が（倒せた選手を）立ち上がらせたり、医療支援を受けられたりするようにするための身体的手助け ・ 電子掲示等による競技経過時間等の提示 ⇒ すべての競技者に平等（個人はダメ） 	<p>§ 1 4 4 - 4 (g)</p> <p>§ 1 4 4 - 4 (h)</p>
8	<p>○ リレーで除外処分を受けた場合のチーム・個々の選手の取り扱い【明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除外により失格となるのは当該種目での当該チーム単位 ・ 当該チームが失格になっても、個々の選手は単独種目・混成競技の個別種目への出場チームも他のリレー種目への出場は可能 	<p>§ 1 4 5 - 3</p> <p>§ 1 2 5 - 5</p> <p>§ 1 6 3 - 3・4</p>
9	<p>○ 男女混合競技を認める条件【明確化・追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トラック競技：5 0 0 0 m以上、人数、他性別間での助力行為の禁止〔国内〕男女いずれかが8名以内、かつ男女合計30名以内の場合のみ ・ フィールド競技：男女別々に記録用紙作成 各ラウンドの試技順は性別ごとにでも交互でも可 	<p>§ 1 4 7 - 2</p>
10	<p>○ スタートの再定義【明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不正スタート規則の適用状況を鑑み、§ 1 6 2 - 5〔国内〕は競技規則から削除 ・ 不正スタートの定義文言の明確化 	<p>§ 1 6 2 - 5〔国内〕</p> <p>§ 1 6 2 - 7</p>
11	<p>○ 直線競走の逆走【変更・追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 条件の満たした競技場かつ整備が整っている場合のみ ・ レーンの表示、風力測定は則足通り 	<p>§ 1 6 3 - 1〔国内〕</p> <p>§ 1 6 3 - 1・10</p>
12	<p>○ 失格対象としての「リレーチーム」の扱い【明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リレーの際のレーン侵害行為の失格対象 	<p>§ 1 6 3 - 3・4</p> <p>§ 1 4 5 - 3</p>
13	<p>○ 写真判定装置の作動状況での記録の扱い【明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタート時は自動的に作動しないが、フィニッシュ時は自動的に作動 ⇒ 手動計時と同じ ・ スタート時は自動的に作動するが、フィニッシュ時は自動的に作動しない ⇒ 手動計時でも写真判定でもない 	<p>§ 1 6 5 - 1 7</p> <p>§ 1 6 5 - 1 8</p>
14	<p>○ ハードルの失格の定義【明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードルを越える瞬間に、足または脚がハードルからはみ出て（どちら側でも）バーの高さより低い位置を通ったとき ・ 手や体、振り上げ足の上側で、いずれかのハードルを倒すか移動させたとき ・ 直接・間接を問わず、レース中に他の競技者に影響を与えたり妨害するような行為や他の規則に違反する行為で、自分のレーンやそのレースの他の競技者のレーンのハードルを倒したり移動させたとき 	<p>§ 1 6 8 - 6</p>
15	<p>○ 〔国際〕U 1 8 男子障害物競走【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規格 高さ8 3 8 mm ※ 但し、国内では実施せず 	<p>§ 1 6 9 - 5</p>
16	<p>○ バトンの受け渡し時にバトンを落とした場合の対応【変更】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ （従前）渡し手と受け手の両方が触れている状態ならどちらが拾っても可 ・ （変更）バトンパスが完了していないので渡し手が拾わなければならない 	<p>§ 1 7 0 - 7〔注釈〕</p> <p>※ 別途：資料説明あり</p>

	ポ イ ン ト	関 連 条 文
17	○ 個人所有投擲物の持ち込み個数の制限【追加】 ・ 原則 2 個まで	§ 1 8 7 - 2〔注釈〕
18	○ 混成競技の実施時間【変更】（従前）2 日間で開催 ・ 連続する 4 8 時間以内	§ 2 0 0 - 2 ~ 5 § 2 2 3 - 2
19	○ 競歩におけるペナルティゾーンの判定者【変更】 ・ ペナルティゾーンに入るように命じられても入らない場合や定められた時間とどまらない場合の失格判定は審判長が行う ・ 歩型関連の失格判定は競歩審判主任が行う	§ 2 3 0 - 7 (C) § 2 3 0 - 4
20	○ 世界記録が公認される種目・日本記録が公認される種目【変更・削除】 ・ 競走競技 男女： 2 0, 0 0 0 m、 2 5, 0 0 0 m、 3 0, 0 0 0 m	§ 2 6 1 § 2 6 6 - 10
21	○ 用語の見直し【変更・（国内）】 ・ ナンバーカード（ピブス） ⇒ アスリートピブス（ピブス） （用語の定着と実態を勘案）	【全 般】 § 1 4 3 - 7 ~ 10 § 2 1 6 ・ § 2 3 0 - 7
22	○ 施設用器具関連 ・ 〔国内〕 § 1 4 8 - 4 に合わせた計測単位表記（原則） ・ 〔国際〕 水濠規格の明確化 ・ 〔国際〕 走高跳の助走路の最大許容傾斜度の変更 1 / 2 5 0 ➡ 1 / 1 6 7	【全 般】 § 1 6 9 - 6 § 1 8 2 - 4

3. 〔国際〕2020・11・1から 〔国内〕2021・4・1から適用

1	○ 走幅跳・三段跳でのビデオカメラ等による踏切の判定【新規】 ・ ビデオカメラ等の機器の使用が可能に ・ ビデオカメラ等の機器の使用しない場合はこれまで通り、粘土板を使用	§ 1 8 4 - 5
	○ 走幅跳・三段跳の無効試技の定義【変更】 ・ （変更前）身体のどこかが踏切線の先の地面（含む粘土版）に触れた時 ・ （変更後）足または靴のどこかが踏切線の垂直面より前に出た時	§ 1 8 5 - 1
	○ 踏切版（粘土版）の粘土の角度【変更】 ・ 4 5 度から 9 0 度へ ・ 〔国内〕ゴム台座が「切り欠けタイプ」は継続使用可。	§ 1 8 4 - 5

World Athletics 競技規則の緊急改正の要点と解説

注：英語の原文と祖語のある場合は、原文の内容が適用になります。

WA 理事会の決定により即日発効（2020年1月31日）。但し第5条2のみ4月30日から有効。

第5条2（旧第143条2）Shoes（競技用靴）

要点1 公平性の理念を追記

1. 誰もが等しく入手可能であること。
2. 競技会の4か月前までに市場に流通し誰もが購入できること。（本項は2020年4月30日から適用）
3. ただし、医事的理由などによるカスタマイズは認められる。

第5条5（旧第143条5）The Sole and The Heel（靴底と踵）

要点2 靴底及び踵の厚さの上限

1. 走高跳・走幅跳以外の競技用靴にも厚さの上限を設ける。
2. どの部分で厚さを確認するかを明記

【具体的な厚さ】

第5条13.3（新たに追加された条項） ※ 次の決定がなされるまでの一時的禁止事項

- ① スパイクのある競技用靴： 上限30mmとする
- ② スパイクのない競技用靴： 上限40mmとする

第5条6（旧第143条6）Inserts and Additions to the Shoe（競技用靴への仕掛け及び付属品）

要点3 競技用靴底に挿入が認められているプレートの数

1. 競技用靴底に挿入が可能なプレートの追記

【具体的な数】

第5条13.1 & 2（新たに追加された条項） ※ 次の決定がなされるまでの一時的禁止事項

- ① スパイクのある競技用靴： 1個のみ（靴底のスパイク取り付け用プレートを除く）
- ② スパイクのない競技用靴： 1個のみ

【WAによる補足説明】

1. 今回の改正は、ある特定のメーカーを狙い撃ちしたものではない。激しさを増す開発競争のなかで、既存の競技規則では補いきれない部分を今後、より明確にするために暫定的な対応として、現在一般に販売されているアイテムを受け入れる一方、それ以上の仕様は認めないこととした。
また競技規則である以上、競技役員が招集所などで確認できる範囲の内容であることを基本としている。この改正は競技用靴全般が対象であり、ランニングシューズだけではなくスパイクも対象に含まれる。
2. スパイクのある競技用靴、スパイクのない競技用靴共通で、オーダーメイド（カタログにないアイテム）やプロトタイプ（試作品）でも、4月30日より前であれば靴底の厚さとプレートの数が新たな規則にあてはまれば使用可能。
3. 「特注品」と言われているものでも、カタログに掲載されているモデルを選手の足に合わせて靴底などに修正を加えたものは、足のケガを防止するためのカスタムズと解釈できるので、そのことだけを理由として使用禁止とならない。
4. すべての選手が（等しく）どのシューズもてにすることができるという基本原則のもと4か月が商品販売後、選手がシューズに慣れるまでのリーズナブルな期間として設定された。商品の販売とは、店頭にはなくてもオンラインで購入できる状況になっていけばよい。
5. 過去、これらの規則に合致していなかったシューズが使用されて記録が出ていても、その段階では、規則違反ではないので、記録は有効である。
6. 規則の改正後、規則に合致しない競技用靴で樹立された記録は認められない。すなわち世界の大会への出場資格やワールドランキングの対象とはならない。
7. 招集所では通常の（これまで通りの）チェックをおこなう。すなわち、「走幅跳と走高跳では、靴底の規則があったので厚さの確認もしていましたよね。同じ作業をするだけです」という意味。ただし、主要メーカーのシューズは、基本、WAの審査を通過しているので、過敏になる必要はない。これまでの走幅跳と走高跳の靴底チェックと同じ対応でよい。靴底チェックは、ノギス使用を想定。
8. シューズの性能など、機能や仕様に疑義がある場合には、レース後、審判長が、選手に対し、検査を要求する権限を持つ。すなわちレース前は、靴底のチェックのみ、プレートなどそれ以外はレース後検査し、WAに判断を委ねることも可能。

※ 医学的理由などによるカスタムズ ➡ 外反母趾・左右のシューズのサイズの調整

1. 競技者のケガの防止
2. スポーツの高潔性・公平公正な競技会運営